

動 檢 時 報

Vol.54-1 2021.01



What's New !

新年明けましておめでとうございます。

今年の干支は丑(牛)です。牛は、農耕作業や物資運搬の労働力として、古くから人間の生活に欠かせない身近な動物で、動物検疫所の検査対象動物です。(写真は中国などに生息するウシ科の動物 ゴールデンターキンです。)

今年は延期されていた東京オリンピックが開催される予定です。動物検疫所としても、さらなる水際対策の充実に努めてまいります。

動検時報 第1号 目次

年頭の挨拶(動物検疫所長).....	3	
 トピックス		
・ 市民講座「環境カウンセラーと行く『畜産と環境～肉の向こうに環境を見る～』 及び「セントレアまるごとウォッチング2020」の参加者を受け入れました(中部空港支所).....	4	
・ 「2020.動物愛護フェスティバルふくおか」へ参加しました(門司支所検疫第3課).....	5	
・ 福岡空港におけるイベントの参加(門司支所福岡空港出張所).....	6	
 動物検疫関連情報		
・ 検疫探知犬が140頭になります！(企画管理部企画調整課).....	7	
・ 畜産物を探知するにおいてによる検知技術の検討について(企画管理部調査課).....	8	
・ AIを活用したX線装置導入に向けて(企画管理部企画調整課).....	9	
ご当地グルメ～北海道のうまいもん～(北海道・東北支所).....	9	
動物検疫所を飛び出し、外の世界で活躍している職員からのメッセージ		
((国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門長 筒井俊之.).....	11	
 所内情報		
・ 入省後の研修期間を経て(令和2年4月新規採用者).....	13	
・ 人事異動(令和2年11月1日～令和3年1月1日)(総務部庶務課).....	15	
 畜産物・動物の輸出入検疫数量実績(令和2年11月)(企画管理部調査課).....		16
令和2年11月～令和2年12月の出来事.....	18	
 令和3年1月1日現在組織図(企画調整課).....		19
 動検通信(企画管理部危機管理課長).....		20

年頭の挨拶

...

(動物検疫所長)



新しい年を迎え、遅ればせながら 年頭の御挨拶をいたします。

旧年中の皆様の御理解、御協力に心から御礼を申し上げるとともに、皆様とともに新しい年を迎えたことに改めてお慶びを申し上げます。

昨年は、アフリカ豚熱が我が国の水際に迫る中で、新型コロナウイルス感染症、豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等国内での発生により、一職員としても組織としても極めて厳しい年となりました。

本年の干支は丑。丑年は子年に蒔いた種を育てる年と言われます。耐えながらも一步一歩地道に物事を進めていく年となるでしょう。必ずやピンチをチャンスに変えることができると思っています。

昨年、動物検疫の水際強化のため、家畜伝染病予防法を一部改正し、家畜防疫官の検査権限の強化、罰則の強化等を行いました。また、動植物検疫探知犬は、世界でもトップクラスとなる 140 頭体制が今年 3 月末までに整います。税関、出入国在留管理局等との連携強化も進み、これまでにない水際強化対策を追加措置しました。今年はそれらの種を効率的、効果的に育て、運用し、実になるものにしてい

きます。

具体的には、検疫探知犬の探知活動の全国統一的な精度管理を取り入れるとともにハンドラーの役割の明確化など探知体制の高位平準化を図り、探知犬 140 頭体制の効率的な運用を行います。また、携帯品検査においては教育強化による口頭質問技術の向上を図ります。郵便物検査については、検疫探知犬の増頭やこれまで得られた検査データに基づくより効果的な検査を実施するとともに、外国人国内居住者への注意喚起などにも力を入れます。畜産物検査については、関係者との意見交換や試行的な取組を通して、一層の効率化、合理化を図ります。

それぞれの空海港において、その状況に応じ、リスクアナリシスの結果を活用しつつ、得られた検疫ツールを戦略的に駆使し、より効率的、効果的な検査を実現します。

また、政府、農林水産省の重要課題として位置づけられている輸出促進についても、輸入検疫とは異なる立場で国内の輸出者を支援し、円滑な輸出が行われる取組を一つ一つ増やしていきます。

国内での豚熱、鳥インフルエンザ等の疾病発生時の職員派遣、防疫資材の備蓄・貸出しなどの緊急支援については、動物衛生課と連携しつつ、これまでの経験を活かし、都道府県に感謝されるようできる限りの支援を引き続き行います。

さらに、近い将来を見通して、AI 機能を活用した X 線検査やおい探知機などの開発も併せて進めます。

動物検疫所内部の話ではありますが、専門集団としての強みが増すよう研修のあり方、内容についても、アフターコロナを想定し、改善を行います。なお、動物検疫所の職員の増加に伴い、女性比率が男性を上回ったことなどから、より働きやすい職場となるよう人事改革、職場環境の整備などの取組も確実に進

めます。

高病原性鳥インフルエンザは気候が暖かくなる春までは油断ができないものと思われます。新型コロナウイルス感染症は、依然として猛威を振るっていますが、ワクチン接種が進めば、世界的にも落ち着きを取り戻すものと大きな期待を寄せています。

こうした中で、昼夜を問わず、国家の水際防疫、国内まん延防止にその身を投じている動物検疫所の職員を誇りに思っています。コロナ禍にあって、我々の使命を改めて心に刻み、水際の最前線で防疫強化を一層進める所存です。

本年も、皆様の御理解と御協力をよろしくお願ひいたします。

本年が国民の皆様、生産者を始め、農林水産関係者、動物検疫関係者の皆様にとって、良い年となりますよう祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

動物検疫所 所長 伊藤 和夫

トピックス

・市民講座「環境カウンセラーと行く『畜産と環境～肉の向こうに環境を見る～』及び「セントレアまるごとウォッキング2020」の参加者を受け入れました

... (中部空港支所次長)

令和2年11月17日と11月25日に、なごや環境大学が主催する市民講座「環境カウンセラーと行く『畜産と環境～肉の向こうに環境を見る～』及び「セントレアまるごとウォッキング2020」の参加者を中部空港支所、名古屋出張所及び精密検査部海外病検査課で受け入れました。

なごや環境大学は、「市民、市民団体、企業、学校・大学、行政が協働でつくる環境活動ネット

ワーク」と位置づけられた生涯学習を企画・開催する団体で、毎年、後期講座として開催される「セントレアまるごとウォッキング」で動物検疫所の業務内容の紹介、施設見学を行ってきましたが、本年度は、前期講座として企画する「環境カウンセラーと行く『畜産と環境～肉の向こうに環境を見る～』」という見学会のなかで、野跡検疫場において保管している大型防疫資材の見学を行いたいとの申し出があり、年間2回の講座参加者を受け入れることになりました。

例年であれば前期講座を9月までに開催し、後期講座は10月以降の年度後半に開催するのですが、今年は新型コロナの感染拡大に伴い、6月に予定していた前期講座が延期され、11月に2週連続で受け入れる形で漸く開催にこぎ着けることができました。

各講座への参加者数は、新型コロナの影響もあって、野跡検疫場見学は7名、セントレア講座では5名と少人数での開催となりましたが、参加者は愛知県内在住の方のみにとどまりず、三重県からも動物検疫所の業務に興味のある方の参加がありました。また、少人数開催となったことが幸いして、ひとり一人に動物検疫所の業務概要、海外における家畜悪性伝染病の発生状況、携帯品として持ち込まれた畜産物から分離されたアフリカ豚熱ウイルスなどの情報、家畜伝染病予防法改正内容を含む水際検疫強化の概要及び大型防疫資材などの説明を詳しく丁寧に行うことができました。参加者からは、「畜産物に生きたウイルスが残ることがあるのか」、「アフリカ豚熱には予防ワクチンのようなものはないのか」などの専門性の高い質問や、大型防疫資材の処理能力、使用場所までの輸送方法及び使用する燃料の種類に関する事、輸入される家畜の用途や日本までの輸送方法など、動物検疫所の業務に幅広く関連する多くの質問があり、参加者の皆様と共に非常に活気に満ちた有意

義な時間を過ごすことができました。また、海外病検査課がある中部検査・診断センターでは、B S L 3 の検査室をガラス越しではありませんが見学していただくことができました。一般の方では、日常では見る機会がない精密検査施設内を実際に見て頂きながら説明を行い、見学後、参加者から「貴重な経験ができた」と感謝の言葉を頂くことができました。

今回の両講座では、動物検疫所の業務説明のなかで国内畜産農家の皆様に取り組んで頂いている飼養衛生管理基準の概要を講座参加者に紹介し、家畜の伝染性疾病の侵入防止対策は水際検疫だけ強化すれば良いというものではなく、複数の関所を設けることで病気の侵入を防いでいることをお話ししました。畜産関係者以外の一般の方でも、ふれあい動物園や観光牧場などで家畜に触れる機会があると思います。動物園や観光牧場が来園者にお願いしている家畜に触れる前、触れた後の手洗いや手指消毒、入出園時の靴底消毒などの基本的な防疫対策が、家畜伝染性疾病の病原体を持ち込まない、持ち出さないために重要であることをお話しし、参加者の皆様と家畜防疫に対する価値観を共有することができました。

国民の皆様が「自分でもできる家畜伝染性疾病の侵入・拡散防止対策」として、基本的な防疫対策の重要性を理解し、実行して頂くことができれば、国内への家畜伝染性疾病の侵入、発生、蔓延防止に少なからず好影響を与えると考えます。このため、今後も市民講座や航空会社の社員研修会などを行う際には、水際検疫の話題に限定したお話しするのではなく、併せて国内防疫対策に関連する説明を行うことを継続し、一般の方がより多く家畜防疫を身近に感じられるよう努めていきたいと思っています。

・「2020動物愛護フェスティバルふくおか」へ参加しました

...

(門司支所検疫第3課)

令和2年11月8日(日)に「だざいふ遊園地」(福岡県太宰府市)で開催された「2020動物愛護フェスティバルふくおか」に参加しました。

このフェスティバルは、動物の愛護と適正な飼育についての关心と理解を深めることを目的に開催されています。例年、ペットスケッチコンクール、相談ブースの設置、スタンブラー等が行われる大変活気あるイベントですが、今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面にならないパネル展示を中心としたイベントとなりました。

当所では、動物検疫業務の案内ポスター、子供向けのクイズや検疫探知犬のぬいぐるみを設置して、「クンくんのうた」を流す等、子供に興味を持ってもらえる工夫をしました。また、華やかな遊園地の雰囲気に負けないよう、九州ご当地クンくんや検疫探知犬のイラスト等で装飾し、楽しく、目立つような展示を心掛けました。

当日は秋晴れの良い天気で家族での来園も多く、親子で足を止めてパネルを見ている姿や、クイズで遊ぶ子供達も見られました。

来年度は、新型コロナウイルス感染症の終息を願いつつ、より多くの方に興味を持ってもらえるよう、効果的な広報を目指していきたいと思います。



第2部の福岡空港職場見学会は、国内線の平面駐車場で開催されました。第2部では、各機関の展示ブース等が設置され、ステージにおいて、航空自衛隊及び県警音楽隊の演奏、福岡空港で働く警察犬、検疫探知犬及び麻薬探知犬のデモンストレーションが披露されました。

検疫探知犬のデモンストレーションは、ハンドラーと探知犬の次郎号には見えないように並べ替えた5つのスーツケースで実施しました。次郎号は、大勢の人々に見られている中、緊張する様子もなく、ビーフジャーキー及びリンゴの入った2つのスーツケースを見つけて出し、観客たちから拍手が送られました。

展示ブースでは、パンフレットや福岡空港で活動している検疫探知犬のお手製缶バッヂ等を訪れたお客様に配布しました。ブースを訪問したお客様からは、検疫探知犬のデモンストレーションについて、肉や果物の入っているスーツケースへの反応が早かった等お褒めの言葉をいただき、検疫探知犬についてアピールできる良い機会になりました。

今回の出陣式では、普段の業務では関わる機会がない警察犬を始め、検疫探知犬及び麻薬探知犬が一堂に会し、福岡空港で働く犬たちが活躍していることを広く周知することができました。

・福岡空港におけるイベントへの参加 ... (門司支所福岡空港出張所)

年末合同出陣式に検疫探知犬も参戦

令和2年12月3日、福岡空港警察署主催の「福岡空港年末合同出陣式」に参加しました。この合同出陣式は、福岡空港初の取組みとして、年末年始における福岡空港での各種事件・事故を防止するため、空港関係者等との団結を図ることを目的として開催されたものです。福岡空港で働く犬たちの紹介も兼ねた広報活動を実施し、官民合同で一体となり、福岡空港を盛り上げていければとの思いから、当所も参加することになりました。

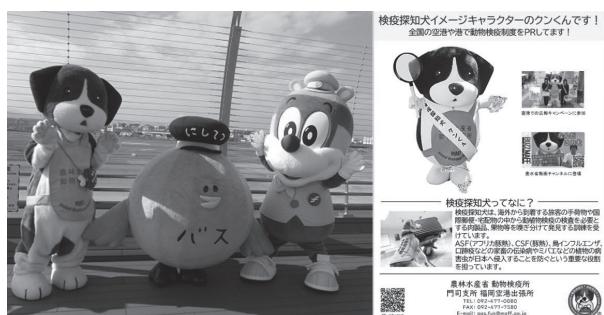
第1部の開会セレモニー及びパトロールは、福岡空港国内線旅客ターミナルで行われました。第1部には、検疫探知犬イメージキャラクターのケンくん及び動植物検疫探知犬の次郎号の他に、福岡県警察のふっけい君、警察犬、税関のカスタム君及び麻薬探知犬も参加しました。

国内線のお見送り式にクンくん登場

令和2年11月25日、国内線の3階展望デッキにおけるTEAM.FUK.お見送りプロジェクトに、検疫探知犬イメージキャラクターのクンくんが参加しました。TEAM.FUK(チーム福岡空港)は、福岡空港に携わる官民の組織団体で構成されているチームです。

コロナ禍で、暗いニュースが多い世の中に、明るいニュースを福岡空港から届けることを目的としており、我らのクンくんが少しでも貢献できればと考え、参加することを決めました。

当日は、午前と午後で国内線各1便に対し、参加メンバーが出発する航空機に向けて、横断幕を持ち、手を振り、お見送りを実施しました。お見送りには、クンくんの他に、福岡市地下鉄のちかまる、西鉄バスのパパ・バスオも参加しました。ゆるキャラ3体は、展望デッキにいらっしゃったお客様と写真撮影を行う等人気でした。また、クンくんに興味を持ってくださったお客様あてに、クンくん及び検疫探知犬について紹介する当所オリジナルのリーフレットを配布しました。



新型コロナウイルスの影響により、空海港における広報活動がなかなかできない状況下において、今後も動物検疫及び動植物検疫探知犬について、知ってもらう機会を模索したいと思います。



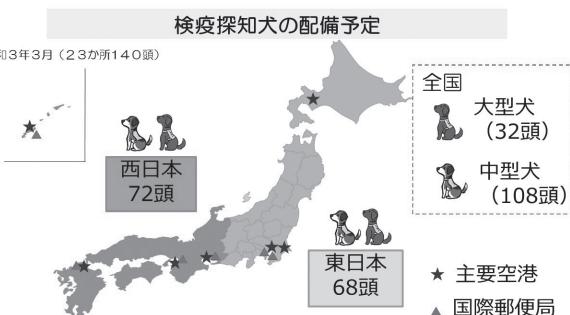
動物検疫関連情報

・検疫探知犬が140頭になります！

(企画管理部企画調整課)

平成30年8月に中国で発生したアフリカ豚熱が近隣アジア諸国に発生が拡大し、日本への侵入リスクがこれまでになく高まつたことなどを踏まえ、動植物検疫探知犬を140頭へ増やすこととしたことについて動検時報でお知らせしてきたところです。

これまでに令和2年度増頭分の契約手続きが完了し、3月には世界でも有数の140頭体制となり、大まかな配置は下図のとおりとなります。



これにより、成田空港、羽田空港、関西国際空港等主要な国際空港に加えて全国の地方空港へも探知場所が広がります。また、入国検査場内での探知と並行してそれ以外の場所での探知も開始し、探知活動そのものの強化を図っていきます。

海外から送付される郵便物については、国内全ての国際郵便局(川崎東郵便局、東京国

際郵便局、中部国際郵便局、大阪国際郵便局、新福岡郵便局及び那覇中央郵便局）における探知が本格化します。

また、今後は空港や国際郵便局での探知に加え国際フェリー・や高速船などについても活動することとしています。

昨年は新型コロナウイルスの影響を受け、海外から日本に到着する便が大幅に減少したことから、特別な事情がない限り、全ての便で検疫探知犬による探知を行っています。また、今後入国者数が回復した際に探知レベルが落ちないよう、空港や訓練施設でトレーニングに取り組んでいます。

今年は延期された東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催も控えており、海外から到着する便が少しずつ戻り、日本への入国者の数も回復していくものと思われます。今後は、探知実績の科学的な分析を開始し、探知能力の評価をより厳密に行うなど、探知能力のレベル向上を図り「量」のみならず「質」についても世界有数の探知体制となるよう引き続き努めていきます。

・畜産物を探知するにおいてによる検知技術の検討について

...

(企画管理部調査課)

アフリカ豚熱をはじめとする家畜の伝染性疾病的国内への侵入を防止するため、これまで家畜防疫官の増員、動植物検疫探知犬の増頭や家畜伝染病予防法の改正により、水際検疫体制の強化を進めてきました。これまで国内を中心に主として日本語及び英語にて実施してきた広報についても、海外やインターネット、また中国語、ベトナム語などでアフリカ豚熱発生国の状況を踏まえ、案内を強化してきましたが、訪日外国人の増加やインターネットを利用した個人輸入が容易になったことから、携帯品や郵便物による畜産物の不正持込

みが後を絶ちません。

そのため、不正持込みを防止する方法として、急速な技術の発展に伴い研究開発が進められている IoT^{*1} や AI^{*2} の技術を活用した動物検疫業務の可能性について検討を行っています。

現在、当所で注目している技術の1つは、IoT の重要な技術の一つとして考えられているセンサー（感知器）です。スマートフォンの普及により様々なセンサーが小型化、低コスト化を実現しており、私たちの生活の中にもあらゆる場面でセンサーから得られた情報が活用されています。そうした中、今まででは実現が困難とされていた複数の物質や濃度を測定可能な汎用性の高い「においてセンサー」が開発され、商品化に向け研究機関、大学、企業等により更なる研究が進められています。動物検疫所では、検疫業務における「においてセンサー」の実用性を確認するため、実際の検査物、状況下で畜産物の判別精度、探知感度を検証する予定にしています。

機械によるにおいての識別が実用化されれば、輸入時に検査の届出が行われない携帯品の荷物の効率的かつ効果的な水際検疫が期待できます。

目下の目標は、家畜防疫官が携帯できる畜産物探知機器^{*3} の開発です。

水際検疫の更なる強化に向けて様々な検討を進めて参ります。

*1: IoT とは、様々な物がインターネットによりネットワークに接続し情報を集積、共有することによりコンピュータによる解析が可能となる仕組み（Internet.of.Things の略）。

*2: 現在広く利用されている AI は限定された機能に特化してコンピュータが学習し処理を実行する仕組み Artificial.Intelligence の略）

*3: 動物検疫における「においてセンサー」を使用した畜産物探知機器の要件

1. 箱包された状態の畜産物であっても検知できる感度
2. 様々な畜種、加工状態の畜産物を探知可能であること
3. 携帯性にすぐれること
4. 連続した探知にも対応可能であること
5. メンテナンスが不要又は容易であること
6. 経済的であること

・AIを活用したX線装置導入に向けて

… (企画管理部企画調整課)

先般閣議決定された令和3年度政府予算案において、X線画像上の指定検疫物（動物検疫の検査の対象となるもの）のAIによる識別技術の開発に向けた経費が認められました。

これを受け、関係機関の協力をいただきながら、令和3年度に指定検疫物の識別に必要なAIアプリケーションのプロトタイプを作成し、令和4年度についても引き続き予算要求をし、実用化に向けてAIアプリケーションの精度向上等を進めていく計画としています。

AI活用に向けた予算要求の背景について簡単に説明します。

家畜伝染病予防法により、肉や肉製品等指定検疫物を輸入した者は、動物検疫所に届け出て、家畜防疫官による検査を受けることが義務づけられています。また、指定検疫物が国際郵便物として我が国に送付された場合は、日本郵便株式会社が、家畜防疫官による検査を受けるため動物検疫所に通知することとされています。

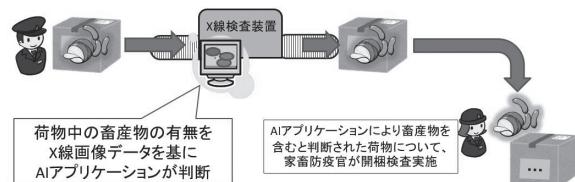
このように、輸入される指定検疫物の家畜防疫官による検査は法律上義務づけられていますが、全ての入国者が自発的に届出

を行い、また指定検疫物を含有した全ての国際郵便物が動物検疫所に通知されることは、様々な要因により困難であることも事実です。この現実への対応は、日本のみならず世界各国の家畜衛生当局が直面している大きな課題の一つです。

このため動物検疫所は、広報を国内外で積極的に実施し、家畜防疫官の定員を継続的に増やす（平成29年度435人 令和2年度491人）とともに、平成30年以降のアジアにおけるアフリカ豚熱の発生拡大を踏まえ、動植物検疫探知犬を本年度中に140頭に大幅に増やす（平成29年度28頭の5倍）など検疫強化に努めてきました。

来年度に予算を認められたAIによるX線画像上の指定検疫物の識別技術の開発は、海外からの家畜伝染病の侵入リスクを低減するための検疫強化の延長線上に位置し、中長期的な検疫コストの削減も視野に入れ、自主的に届出がなされない指定検疫物や指定検疫物を含んでいることを適切に外装に表記していない国際郵便物を、効率的により多く検査することを実現するための第一歩となることを期待するものです。

指定検疫物のAIによる識別技術を活用した検査のイメージ



ご当地グルメ～北海道のうまいもん～

… (北海道・東北支所)

北海道はグルメの宝庫。今回は函館より数あるグルメを王道から家庭料理まで幅広くご

紹介します。まずは、函館出身の有名ロックバンドが愛してやまない王道グルメから。

○ラッキーピエロ（通称ラッピ）のハンバーガー

言わずと知れた函館を代表するハンバーガーショップですが、ただのバーガーショップと侮るなかれ。日経PLUS1のご当地バーガーランキングで全国1位に輝いたこともある、地産地消へのこだわりと地元に密着した店舗展開により、函館市民の「故郷の味」と謳われているほどです。オーダーメイドシステムで、看板メニューはなんといってもチャイニーズチキンバーガー（通称チャイチキ）。キヌア入りパンズにジャンボ唐揚げ3個、レタス、特製マヨネーズが一緒に挟んであります。甘辛く味付けされた唐揚げと特製マヨネーズの相性は抜群。この1番人気のチャイチキをはじめ、ジンギスカンバーガー、イカ踊りバーガー、高さ20cmのTHEトップバーガー等、個性豊かなバーガーの他、新鮮玉子を4個も使ったふわとろチーズオムライスも絶品ですよ。さらにカレー、カツ丼、あんかけ焼きそば、ソフトクリーム、ケーキ等、店舗ごとに異なる自慢の個性派、手作り料理メニューがいっぱいです。これらメニューがボリュミーで安価な点もラッキーピエロの大きな魅力です。もちろん、北海道の材料がふんだんに使用されています。愛情たっぷり、ボリュームたっぷり、一度食べるとまた食べたくなる、まさに故郷の味です。執筆中に食べなくなってしまったほどです。



チャイニーズチキンバーガー

○ハセガワストア（通称ハセスト）のやきとり弁当

やきとりといつても鶏肉ではありません。もちろん鶏肉のやきとりもありますが、ここでは豚肉です。ややこしいのですが、道南エリアを含む一部の地域では豚精肉を串焼きにしたものを「やきとり」と呼んでいます。この地域では養豚業が盛んで、串焼きに安価で手に入りやすい豚肉を使用するようになったそうです（諸説あります）。その「やきとり」、中でも先に紹介したラッキーピエロ同様、地元密着型のコンビニエンスストア、ハセガワストアにあるやきとり弁当が函館市民のソウルフードとして親しまれています。

コンビニとは言え店内に調理場を持ち、注文を受けてから調理するので、出来たてホカホカを持ち帰ることができます。そのため、店内はいつも混んでいます。味はタレ、塩、塩だれ、旨辛、みそだれの5種類あり、タレが一番の人気です。長い待ち時間を耐えて弁当のふたを開けると、ふっくらご飯に敷かれた海苔の上にやきとりが鎮座し、タレの絡んだ焼きたての肉の匂いが食欲をそそります。待ち時間も忘れる、ささやかな幸せの瞬間です。

続きまして、寒さが厳しい土地ならではの、冬の代表的な家庭の味をご紹介します。



やきとり弁当

○ゴッコ汁

みなさんも、転勤の先々でスーパーに並ぶ魚や野菜の種類の違いに驚いたり、目を奪われた経験ありますよね？厳冬期の1月から2月にかけて店頭に並ぶゴッコ(ホティウオ)は、ヌメリのあるアンコウに似た魚で一見グロテスクですが、見た目とは裏腹に、根菜やネギを入れたゴッコ汁は体の芯から温まります。ゼラチン層が厚く身がプルプルで、特に女性にはおススメ、食べた翌日はツヤツヤなお肌をお約束します。また、炙ると皮がパリパリ、身がモチモチして違う食感を味わえます。一味マヨネーズをつけて食べるとお酒のお供に最高です。



見た目は...でも美味しいゴッコ汁

○ニシン漬け

冬を代表する漬物といえば、やはりニシン漬けでしょう。春に収穫されたニシンを干物にして保存し、冬に干した大根やキャベツ等の野菜と一緒に米麹で漬け込むものです。ご近所の庭先に大量の干し大根が並び始めると、冬の訪れを感じます。知る人ぞ知るグルメ漫

画の異名を持つ「ゴールデンカムイ」にも登場しています。発酵して日ごと変わっていく味を楽しむのもオツです。ニシン漬けは食べる米にも飲む米にも相性ピッタリです。



日本酒もご飯も進むニシン漬け

動物検疫所を飛び出し、外の世界で活躍している職員からのメッセージ

(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門長 筒井.俊之)

昭和61年3月の終わりに農林水産省から配属通知をもらうと動物検疫所門司支所と書いてありました。当時は、動物検疫所の業務もあまり理解しておらず、先輩からは検疫所は隔絶された島にあって通うにも大変な所だと脅されていたのを思い出します。門司支所では大正時代に建造された今はなき田ノ浦検疫所で輸入牛の検査を担当することになりました。当時はブラザ合意(注:先進5カ国によるドル高是正に向けた合意のこと)を受けて円高が進行し、肥育素牛の輸入が爆発的に増加している時期でした。門司支所では韓国からフェリーで運ばれる輸入素牛の輸入検疫に追われ、開放すれば、すぐ次の搬入の準備をするというフル回転の状態でした。当時は大動物臨床出身の先輩方もおられて、毎日、見様見真似で聴診器を片手に牛を診て回ったのは今でも懐かしい思い出です。今から思えば、あれほど毎日動物に濃厚に関わったのはあの時

期だけで、新米獣医師として充実した日々を過ごしていたように思います。動物検疫所には都合5年間お世話になりました。

その後、農林水産省本省、家畜衛生試験場（現：動物衛生研究部門）と異動することとなりますが、霞が関時代に運良く2年間の英国留学をする機会を得たことが、私が研究の世界に足を踏み入れるきっかけとなりました。実は、高校時代から英語は苦手でしたが、動検時代には趣味のように英会話学校に通っていました。英国に行っても英語には苦労しましたが、まだ珍しかった疫学という分野を勉強することができ、その後の飯の種を得ることになりました。動検時代には研究者になるとは思ってもいませんでしたので、先のことはわからないものです。

さて、私が採用された時代と今では動検の仕事の内容も大きく変わっているのではないかと思います。当時は、口蹄疫は教科書にある病気で、かつて門司支所が輸入検疫で摘発したホルマリン漬けの口蓋標本を見て、なるほどここに病変があるのかと思うくらいでした。それが2000年以降には、口蹄疫、鳥インフルエンザ、BSE、豚熱など社会的な問題となる疾病の発生が相次いでいます。今では動検の皆さんも輸入検疫のみならず、国内発生時の防疫対応にも取り組まれています。そういう意味では、私がいた時代に比べて仕事の幅が格段に広がっています。これは、現在の職場である研究の世界も同じで、研究手法やツールの進化はすさまじく、いわゆるウェットな分析からドライな解析まで研究者が習熟するべき技術も格段に増えています。また、情報収集手段も進化し、外国郵便で手紙を書き、のんびり1か月先の返事を待つ時代から、リアルタイムで海外とメールを取り扱う時代になっています。今後どのような時代になるのか。未来を予想することはできませんが、想像することはできます。動検に採用さ

れた先輩として、皆さんには未来の動物検疫のある姿と自分の役割を想像しながら、進化し続けていって欲しいと願っています。

所内情報

感が芽生え、水際防疫の大切さを強く肌で感じるようになりました。新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、日々状況が変化していますが、自分に求められていることを常に考え、臨機応変に行動できる社会人かつ家畜防疫官を目指し、精進したいと思います。

(成田支所旅具検疫第1課 山崎みのり)

今年は新型コロナウイルスの影響により、本来の空港の姿とは一変した状況の中、成田支所へ配属となり、現在は犬猫等の輸入業務、携帯品検査業務を中心に業務を行っています。業務を通じ、家畜防疫官としての言葉の重み、関係法令に基づいた様々な状況における的確な判断の重要性を実感しました。半年を経た今、まだまだ経験や知識不足の点が多く勉強の日々です。今後は、より法令への理解を深め、臨機応変な対応ができるよう努めていきたいと思います。

(成田支所旅具検疫第2課 江上明李)

今年4月に成田支所旅具検疫第2課へ配属されてもう半年が経ちました。初めは、法律を理解することでさえ苦戦していましたが、今はどの業務がどの法律に基づいているのかを意識しながら業務を行えるようになったと感じています。ターミナルでの旅客の手荷物検査や犬猫の輸出手手続き以外にも、郵便物の検査や航空貨物の検査、馬の係留検査などの研修を受けさせていただき、動物検疫所の業務の幅広さを実感しています。これからも多くのことを学んでいきたいです。

・入省後の研修期間を経て

(北海道・東北支所検疫課 鈴木有樹)

入省当時は、動物検疫について漠然と理解していただけでしたが、法律の重要性や、日々の業務研修を通して培った知識や技術、そして経験から、動物検疫に対する責任感や緊張

(成田支所旅具検疫第2課 吉野好太郎)

私は、これまで成田支所旅具検疫第1課や東京出張所、羽田空港支所で臨時採用として、7年勤務していましたが、本年4月に新規採用として成田支所旅具検疫第2課に配属されました。現在は、探知犬ハンドラーとなるべく、

所内研修を受講しているところです。ハンドラーはこれまでに経験したことのない業務であり、動物検疫所の幅広い業務に貢献できるよう経験と知識を意欲的に伸ばしたいと思います。

(成田支所貨物検査課 風間幹也)

今年度はコロナ禍の影響もあり動物検疫所の集合研修が9月末にWebを通して行われました。成田支所では新規採用者に対し、外国郵便物検査業務、旅具検査業務、動物係留施設での検査業務の研修を計画していただきました。様々な研修を受け、動物検疫所の業務の幅広さを実感しました。

来年度からは家畜防疫官となるため、諸先輩方のように家畜防疫官としてしっかりと業務ができるよう動物・畜産物への知識を深めたいです。

(羽田空港支所検疫第1課 松尾茜)

羽田空港にて、犬猫の輸出入検査や海外から入国する旅客の携帯品検査をしています。業務の基礎となる家畜伝染病予防法に出てくる「要検査物」という単語一つ取ってもその背景や含まれている情報量の多さに驚くとともに、いつも丁寧に教えてくださる先輩方は感謝しております。この人に任せたら安心だと言つていただける仕事ができるよう日々精進して参ります。どうぞ今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

(羽田空港支所検疫第1課 大野瞳)

COVID-19の流行の影響により、入省当時はこの先、研修や業務等が、どのようになるのかとても不安でした。しかし、入省半年の間で、犬猫の輸出入検査や携帯品検査、航空貨物の輸出入検査、外国郵便物の検査等、非常に多くのことを経験させていただきました。様々な業務に携わらせていただく中で、どのような

業務にも法律や要領に則って行われていることを実感しました。今後は、よりいっそう法律の理解を深め、日々、責任感と向上心を持ちながら業務に励んで行きたいと思います。

(羽田空港支所検疫第2課 西村英里奈)

新設の検疫第2課が置かれる予定だった第2ターミナルはコロナの影響で国際線発着がなくなり、急遽2課は犬猫輸出入問合せ窓口としてスタートしました。臨時採用時に成田で同様の業務経験はありましたが、この期間に羽田の犬猫検査動線や貨物検査に慣れることができました。10月からは臨機、蜜蜂、競走馬等々、初めて携わる検査の研修機会を次々にいただき、目まぐるしいですが、幅広い業務に対応できるよう頑張りたいと思います。

(中部空港支所検疫課 佐藤ひなた)

中部空港支所では、旅客手荷物検査、ペットの輸出入検査、航空貨物検査、郵便局検査など業務が幅広く、初めは流れを理解することに苦戦しました。しかし、研修や日々の業務の中で少しずつですが、業務の理解が深まってきたように感じます。新型コロナウィルスの影響で、例年より国際線の到着便や貨物の検査申請数は少なく、まだ十分に経験を積めていないように感じますが、率先して行動し日々勉強に励みたいと思います。

(中部空港支所検疫課 高見奈央)

中部国際空港では4月から国際便がゼロのため、国際郵便局での郵便物検査に力を入れてきました。毎日たくさん届く郵便物に、指定検疫物がたくさん入っていることに驚きを隠せませんでした。荷物の外装から、どうすれば効率よく指定検疫物を探知できるか毎日奮闘しています。また名古屋港で2ヶ月間の研修を行い、貨物について学びました。始めはよくわからず苦労しましたが、だんだんと

理解が深まってきたように感じています。

(動物検疫所関西空港支所 土井桃子)

私は法律に精通した家畜防疫官になることを目標に掲げ、今年の4月から関西空港支所にて動物検疫業務を行ってきました。

主な業務の一つが一般の方に対する説明や案内ですが、家畜伝染病予防法等、動物検疫に関する法律をわかりやすく案内するためには、自身の十分な理解と知識が必要です。

法律も状況も変化する中で改めて理解することの難しさを日々感じていますが、法律に精通し説得力のある家畜防疫官になることを目指し今後も精進いたします。

(関西空港支所検疫第1課 野島玲)

例年とは様相の異なる国際空港での勤務も半年が経ちました。到着便は少ないですが、このような状況下でも海外から持ち込まれた畜産物からASFウイルスが分離されており、水際防疫の重要性と責任の重さを改めて感じています。2021年には東京オリンピックの開催が予定されています。この先世界の状況がどのように変化するのかは不透明ですが、世界各国との往来が再び活発化する日々に備え、業務経験を重ねていきたいです。

(門司支所検疫第1課 佐藤莉奈)

人生初めての九州に降り立って半年が過ぎ、生活の違いにも慣れてきました。

門司支所検疫第1課では、主に船舶貨物での畜産物検査を行っています。例年は地方空海港での旅客対応も行いますが、今年度は旅客が来ておらず、旅客対応の経験がほとんどありません。その分、博多港方面や福岡空港、係留施設での検査・検疫業務研修を受けたりしています。

カウンター業務に携われていないことは不安ですが、今できることにしっかりと取り組

んでいきたいと思います。

・人事異動

(令和2年12月2日～令和3年1月1日)

… (総務部庶務課)

出張所長・課長以上の異動、動物検疫所外との異動、新規採用、退職に係る異動を掲載

(令和2年12月31日)

松本 理沙 退職(関西空港支所検疫第3課
(任期付採用))

(令和3年1月1日)

武田侑里香 成田支所旅具検疫第1課(新規採用)

畜産物・動物の輸出入検疫数量実績(令和2年11月)

輸入畜産物(前年同月比)

11月分の全体の輸入量は前年同月比 89.0%と 減少しました。

輸出畜産物(前年同月比)

11月分の全体の輸出量は前年同月比 110.0%と 増加しました。

(単位: KG)

品目名	輸入		輸出	
	11月		11月	
骨類	骨	1,017,126	-	
	碎骨	1,115,780	-	
	蹄角	7,851	-	
	骨腱	29,921	-	
	蹄角粉	-	-	
	その他の骨	-	-	
計		2,170,679	0	
肉類	牛肉	冷蔵	25,877,517	258,195
		冷凍	24,695,597	308,629
		その他	16,591	-
		加熱処理	200,726	-
	豚肉	冷蔵	38,545,324	2,442
		冷凍	45,593,680	367,343
		その他	2,970	-
		加熱処理	714,758	-
	めん羊肉		1,296,884	25
	山羊肉		44,215	-
	鹿肉		5,232	38
	その他の偶蹄類肉		-	-
	加熱処理その他の偶蹄類肉		-	-
	ハム		324,123	10
	加熱処理ハム		12,931	-
	ソーセージ		958,276	362
	加熱処理ソーセージ		605,428	-
	ペーパン		138,552	63
	加熱処理ペーパン		1	-
	馬肉		483,531	-
	うさぎ肉		173	-
	犬肉		-	-
	家きん肉		45,929,289	844,764
	家きん加熱処理肉		38,994,349	-
	非加熱 その他の肉	牛	393,788	371
		豚	129,819	50
		家きん	104,044	10,818
		その他	122,680	12,124
	加熱処理 その他の肉	牛	199,944	-
		豚	3,161,481	-
		家きん	2,937,708	-
		その他	541,610	-
計		232,031,223	1,805,233	
臓器類	牛臓器	45,178	12	
	豚臓器	50,043	14,500	
	その他の偶蹄類臓器	14,056	7	
	加熱処理牛の臓器	-	-	
	加熱処理豚の臓器	2	-	
	加熱処理その他の偶蹄類臓器	-	-	
	偶蹄類以外の臓器	28,139	3,080	

	品目名	輸入	輸出
		11月	11月
臓器類	消化管等	2,189,481	27,931
	加熱処理消化管等	-	-
	ケーシング	317,215	-
	脂肪	2,308,545	6,270
	非加熱その他の臓器	330	-
	加熱処理その他の臓器	-	-
	加熱処理家きん臓器	196,264	-
	加熱処理その他の家きん臓器	16,129	-
	計	5,165,381	51,799
卵類	殻付卵	-	1,706,824
	液卵	346,858	3,084
	その他の卵	4	20,621
	計	346,862	1,730,530
皮類	牛皮	1,889,896	1,182,664
	豚皮	122,570	5,030,356
	めん羊皮	138,674	-
	山羊皮	-	-
	鹿皮	7,161	-
	その他の偶蹄類の皮	-	-
	馬皮	66,490	-
	うさぎ皮	15,023	-
	犬皮	-	-
	その他の皮	-	-
	計	2,239,813	6,213,020
毛類	牛毛	-	-
	豚毛	825	-
	羊毛	-	-
	山羊毛	14,645	-
	鹿毛	-	-
	その他の偶蹄類の毛	3,665	-
	馬毛	3,302	-
	うさぎ毛	-	-
	羽毛	254,546	2,230
	犬毛	-	-
	その他の毛	2,057	56
	計	279,039	2,286
乳製品類	チーズ	20,520,701	1,224
	バター	1,632,184	198
	偶蹄類動物の飼料用乳製品	4,332,818	-
	その他の乳製品	6,059,189	66,729
	計	32,544,893	68,151
ミール類	血粉	158,859	-
	肉粉	11,746	-
	肉骨粉	-	-
	皮粉・羽毛粉	-	-
	計	170,605	0
その他	精液(アンブル)	55,899	-
	受精卵(個)	40	-
	ふん・尿	-	8,120
	計	-	8,120
わら類	穀物のわら	18,006,640	-
	飼料用の乾草	5,313	-
	その他	112,350	-
	計	18,124,303	0
	総計	293,072,798	9,871,019

解放重量ベースの速報値

動物名	用途	輸入	輸出
		11月	11月
牛	乳用繁殖用	-	-
	肉用繁殖用	-	-
	肥育用	1,450	-
	と畜場直行用	-	-
	その他	-	-
豚	繁殖用	14	-
	その他	-	-
めん羊		-	-
山羊		-	-
その他の偶蹄類		-	-
馬	繁殖用	43	3
	乗用	14	-
	競走用	16	3
	肥育用	291	-
	と畜場直行用	-	-
	その他	-	-
その他の馬科		-	-
うさぎ		304	-
初生ひな(鶏)		10,465	-
初生ひな(その他)		-	-
種卵(個)		-	-
蜜蜂(群)		1,072	-
指定検疫物以外の動物			9,679
犬		399	324
猫		180	117
あらいぐま		-	-
きつね		-	-
スカンク		-	-
サル		1,014	

令和2年11月～令和2年12月の出来事

- ・ 英国からの生きた家きんの輸入が一時停止されました(11月4日)
- ・ オランダの一部地域から生きた家きん等の輸入が一時停止されました(11月6日、12日、17日、24日、12月3日、8日)
- ・ ドイツからの生きた家きん、家きん肉と鶏の輸入が一時停止されました(11月6日、13日、20日、12月29日)
- ・ 米国ミズーリ州からの生きた家きん、家きん肉等の輸入が一時停止されました(11月17日)
- ・ デンマークからの家きん肉等の輸入が一時停止されました(11月17日)
- ・ フランスの一部地域からの生きた家きん等、家きん肉等の輸入が一時停止されました(11月18日、25日、12月9日、15日、24日)
- ・ ポーランドからの家きん肉等の輸入が一時停止されました(11月27日)
- ・ ベルギーからの家きん肉等の輸入が一時停止されました(11月27日)
- ・ ウクライナからの生きた家きん、家きん肉等の輸入が一時停止されました(12月8日)
- ・ 国内において鳥インフルエンザの疑似患畜が確認されました(11月5日.香川、11月25日.福岡、11月26日.兵庫、12月1日.富崎、12月6日.奈良、12月7日.広島、12月10日.太分、和歌山、12月11日.岡山、12月13日.滋賀、12月16日.高知、12月19日.徳島、12月24日.千葉)

動物検疫所の所在地

動物検疫所		(令和3年1月1日現在)	
		電話番号	F A X
総務部	庶務課 会計課	(045)751-5921 (045)751-5922	(045)753-3910 (045)751-6123
企画管理部	企画調整課 調査課 危機管理課	(045)751-5923 (045)751-5924 (045)751-5955	(045)754-1729 (045)754-1729 (045)754-1729
検疫部	管理指導課 動物検疫課 畜産物検疫課	(045)751-5937 (045)751-5973 (045)201-9478	(045)751-0549 (045)751-5951 (045)212-4623
精密検査部	微生物検査課 海外病検査課 病理・理化学検査課 危険度分析課	(045)751-5943 (045)751-38-8515 (045)751-5947 (045)751-5964	(045)752-5466 (0569)38-8515 (045)752-5466 (045)752-5466
川崎出張所	〒 210-0869	川崎市川崎区東扇島 6-10 かわさきファズ物流センター内	(044)287-7412 (025)275-4565
新潟空港出張所	〒 950-0001	新潟市東区松浜町 3710 新潟空港ターミナルビル	(044)287-7413 (025)270-9741
静岡出張所			
清水港事務所	〒 424-0922	静岡市清水区日の出町 9-1 清水港湾合同庁舎	(054)353-5086 (054)353-7634
静岡空港事務所	〒 421-0411	牧之原市坂口 3336-4 富士山静岡空港旅客ターミナルビル内	(0548)29-2440 (0548)29-2449
北海道・東北支所	庶務課 検疫課	〒 066-0012	千歳市美々 新千歳空港国際線ターミナルビル (0123)24-7011 (0123)24-6421
	小樽港事務所	〒 047-0007	(0123)24-6080 (0123)24-6091
	胆振分室	〒 059-1743	(0134)33-2460 (0134)25-1736
	函館空港出張所	〒 042-0952	(0145)28-3724 (0145)28-2755
	仙台空港出張所	〒 989-2401	(0138)84-5415 (0138)84-5416 (022)383-2302
成田支所	庶務課 旅具検疫第1課 旅具検疫第2課 旅具検疫第3課 動物検疫第1課 動物検疫第2課 貨物検査課 犬・猫輸出手続窓口	〒 282-0004 〒 282-0011 〒 282-0004 〒 282-0006 〒 282-0001 〒 282-0021	成田市古込字古込 1-1 第2旅客ターミナルビル 成田市三里塚御料牧場 1-1 第1旅客ターミナルビル 成田市古込字古込 1-1 第2旅客ターミナルビル 成田市取香字上人塚 148-1 第3旅客ターミナルビル 成田市三里塚大字天浪字西原 254-1 成田市駒井野字天並野 2159 (0476)34-2340 (0476)32-6510 (0476)34-2342 (0476)34-2338 (0476)34-4260 (0476)32-6651 (0476)32-6658 (0476)32-6655 (0476)32-6664
羽田空港支所	庶務課 検疫第1課 (貨物合庁) 検疫第2課 東京出張所	〒 144-0041 〒 144-0041 〒 144-0041 〒 135-0064 〒 273-0016	大田区羽田空港 2-6-4 羽田空港 CIQ 棟 4 階 大田区羽田空港 2-6-3 羽田空港貨物合同庁舎 大田区羽田空港 3-4-2 第2ターミナル国際航路内 江東区青海 2-7-11 東京港湾合同庁舎 船橋市潮見町 32-5 船橋港湾合同庁舎 (03)5757-9751 (03)5757-9753 (03)5757-9755 (03)5757-9760 (03)5757-9752 (03)5757-9759 (03)3529-3021 (03)3529-3025 (047)432-7241
中部空港支所	庶務課 検疫課 (貨物合庁) 四日市分室	〒 479-0881	常滑市セントレア 1-1 CIQ 棟 5 階 (0569)38-8583 (0569)38-8577
	名古屋出張所 (野跡検疫場)	〒 479-0881 〒 510-0051 〒 455-0032 〒 455-0845 〒 923-0993	常滑市セントレア 1-1 中部空港合同庁舎 1F (0569)38-8587 (0569)38-8579 (0593)52-6918 (052)651-0334 (052)381-3361 (0761)24-1407
関西空港支所	庶務課 検疫第1課 (貨物合庁) 検疫第2課 (関西空港検疫場) (霊長類検疫施設) 検疫第3課	〒 549-0011 〒 549-0021 〒 549-0011 〒 549-0001 〒 549-0011	泉南郡田尻町泉州空港中 1 番地 CIQ 合同庁舎 泉南市泉州空港南 1 番地 泉南郡田尻町泉州空港中 1 番地 CIQ 合同庁舎 泉佐野市泉州空港北 1 番地 泉南郡田尻町泉州空港中 1 番地 CIQ 合同庁舎 (072)455-1955 (072)455-1956 (072)455-1958 (072)455-1957 (072)455-1956 (072)455-1964 (072)455-1960 (072)455-1956
神戸支所	庶務課 検疫課 (茹藻検疫場) 大阪出張所 (空港検疫場) 米子空港出張所 岡山空港出張所 広島空港出張所	〒 651-0073 〒 653-0032 〒 552-0021 〒 552-0022 〒 684-0055 〒 701-1131 〒 729-0416	神戸市中央区脇浜海岸通 1-4-3 神戸防災合同庁舎 神戸市長田区苅藻通 7-1-7 大阪市港区築港 4-10-3 大阪港湾合同庁舎 大阪市港区海岸通 3-3-29 鳥取県境港市佐斐神町 1634 米子空港ビル 岡山市北区日応寺 1277 岡山空港ターミナルビル 三原市本郷町善入寺字平岩 64-31 広島空港国際線旅客ターミナルビル (078)222-8990 (078)222-8993
	四国出張所	〒 773-0001 〒 761-1401	小松島市小松島町外開 1-11 小松島みなと合同庁舎 高松市香南町岡 1312-7 高松空港内 (0885)32-2422 (087)879-4654
門司支所	庶務課 検疫第1課 検疫第2課 (新門司検疫場) (太刀浦検疫場)	〒 801-0841 〒 800-0113	北九州市門司区西海岸 1-3-10 門司港湾合同庁舎 北九州市門司区新門司北 3-1-2 (093)321-1116 (093)332-5858
	検疫第3課 博多出張所	〒 801-0805 〒 801-0841 〒 812-0031	(093)321-1116 (093)332-5858
	福岡空港出張所	〒 812-0851	(092)262-5285 (092)262-5283
	長崎空港出張所	〒 856-0816	(092)477-0080 (092)477-7580
	鹿児島空港出張所	〒 899-5113	(0957)54-4505 (0957)20-7113 (0995)43-9061
沖縄支所	庶務課 検疫課	〒 900-0001 〒 907-0242	那覇市港町 2-11-1 那覇港湾合同庁舎 石垣市字白保 1960 番地 104-1 石垣空港国内線旅客ターミナルビル (098)861-4370 (098)862-0093
	石垣分室	〒 906-0013	(0980)87-0064 (0980)87-0837
	平良分室	〒 901-0142	宮古島市平良字下里 1016 平良地方合同庁舎3F 那覇市字鏡水 150 那覇空港旅客ターミナルビル国際線エリア (0980)79-9187 (0980)79-9189 (098)857-4468 (098)859-1646



年頭の挨拶をした伊藤所長
(切られる可能性のあった桜とともに)

左の写真は横浜本庁舎裏にある満開の桜の写真です(令和2年4月)。

現在は移動式レンダリング装置の保管倉庫建築中です。幸いにも桜の幹は切らずに保管倉庫を建築することができることとなりました。

桜は我々に元気と癒やしを与えてくれます。

これからも桜の木を大切にしていきたいと思います。

動検通信(企画管理部危機管理課長)

危機管理課は、動物検疫所のリスクマネジメント、国内の家畜伝染病発生時の防疫支援のため、殺処分等の職員派遣及び防疫資材の貸付、試験研究用の病原体等禁止品の輸入許可、海外から輸入される食肉等の処理施設のリスト更新等、様々な業務に対応しています。

その中で、家畜伝染病発生時に都道府県に貸付する防疫資材(ワクチン、大型機器含む)について今回ご紹介します。

大陸方面から侵入する口蹄疫を日本全国にまん延させないため(兵庫県は太平洋と日本海に面しているのでこの地域の家畜を免疫すると東日本に北上させない)、昭和の頃に神戸に口蹄疫ワクチンが備蓄されました。平成22年宮崎県発生時に神戸で備蓄しているワクチンを宮崎に運び国内で初めて使用されました。現在も神戸支所で備蓄しています。その後、高病原性鳥インフルエンザ発生に伴い動物検疫所全国5カ所に防疫資材庫が設置され、防護服、マスク、ゴーグル、手袋、長靴、フレコンバック、医療用廃棄物容器、連続注射器、耳標、消石灰・・・など非常に多くのアイテムを現在備蓄しています。防疫作業者が装着するものや焼却炉に用いる消耗品の他に鳥インフルエンザワクチンを横浜と門司で備蓄しています。この他、鶏を処分するためのボンベ用ホーン(舞台で雪や霧を発生させる道具)、豚を処分するための電気殺処分機(ドイツ製)を多数備蓄しています。

疾病発生時は迅速な防疫措置が求められます。埋却のため土地を掘ると水が出る等の理由や焼却処理施設に運送できない場合に備え死体を処理する大型機器も備蓄しています。高病原性鳥インフルエンザ用には移動式焼却炉(非組立型1台(名古屋)、組立型3台(名古屋2、門司1))。平成22年島根県発生時に初めて使用されました。牛や豚の処理用には移動式レンダリング装置(現在は中部空港支所(名古屋)に1台)。平成31年2月、大阪府発生時に初めて使用されました。

現在、世界ではアフリカ豚熱の発生が確認され、我が国への侵入が危惧されています。水際でしっかりと対応し侵入を防ぐところですが、万が一に備えるため、今年度中に移動式レンダリング装置を3台追加し、全国4カ所(胆振、横浜、中部、門司)に配備する準備を進めています。そのなか横浜の保管倉庫は横浜本庁舎裏に建設中です。横浜本庁舎裏は、日当たりがとってもよく、人間だけでなく動物にとっても憩いの場です。検疫探知犬アルバート号は毎日の散歩コースとなっています。また、野鳥も多くやってきて羽根を休めています。この仲間たちにとって保管倉庫建築は大変残念なお知らせかもしれません、動物検疫所は国内防疫も精一杯支援するため体制を整備しています。

最新のトピックスは
こちらへ→

動物検疫所のホームページ <https://www.maff.go.jp/aqs/>
農林水産省のホームページ <https://www.maff.go.jp/>
OIEのホームページ http://www.oie.int/eng/en_index.htm

動検時報はこちらにも掲載しています。
<http://www.maff.go.jp/aqs/topix/pamphlet.html#jiho>



編集・発行 農林水産省
動物検疫所
横浜市磯子区原町11-1
(045)-751-5921(代表)